



# Light Up Rotary

第2780地区  
大磯ロータリークラブ



2014～2015年度RI会長  
ゲイリー・C. K. ホアン

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか

★事務所：神奈川県中郡大磯町国府本郷546大磯プリンスホテル内 TEL：0463-61-1111(木) TEL/FAX：0463-36-2255

★例会：毎週木曜日 12:30～13:30 大磯プリンスホテル TEL：0463-61-1111 FAX：0463-61-6281

会長 守屋 紀忠

会長エレクト 河本 親秀

幹事 井上 浩吉

## 第2325回 例会 平成27年5月7日 (晴) No.39

■司会：大藤 勉

■点鐘：守屋 紀忠

■合唱：君が代・奉仕の理想

◇プログラム ・5月14日：米山奨学生 アルウィン・リアントさん ・5月21日：会員増強フォーラム 井上浩吉さん

◇出席報告

例会	会員数	出席数	出席率	メークアップ	修正出席率
2325回	17(16)	9	53.33%	—	—
2323回	17(15)	9	60.00%	—	—

◇欠席者(7名) 小林、宮澤、石山、太田、齋藤(正)、笹尾、原さん

◇メークアップ(0名)

◇ゲスト

原貫太さん： Bangladesh International Cooperation Team 代表の早稲田大学社会学部3年の原貫太です。本日はご招待頂き有り難うございます。第1回の報告をして半年が経ちました。



この3月1ヶ月間現地に滞在してストリート・チルドレン(SC)と沢山の時間を一緒に過ごして参りました。同時に様々な事を考えました。この1ヶ月間の滞在を通して自分の未熟さを改めて痛感すると共にSCの問題の根深さ複雑さ、広さを痛感する共に色々決心する事が出来ました。その思いを30分間でお伝えできるよう全力でお話し致したいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

高橋昌宏さん： Bangladesh International Cooperation Team 早稲田大学教養学部・社会学部社会科学科専修の高橋昌宏と申します。僕も2週間という短い時間でしたが3月にBangladeshに行参りましてそこでSC問題に



ついて色々見た事や感じた事がありました。今日は私は発表しませんが、サポートしたいと思っています。よろしくお祈りします。

◇おめでとうございます



結婚記念日祝：

田中敏治さん

(5/3)

丁度10年になりました。皆さんの20年、30年、40年の先輩を目指してこれからも仲良く頑張参ります。

お花有り難うございました。

◇会長報告

守屋 紀忠会長

1. 地区よりネパール大震災の援助協力依頼：1名1,000円以上。後刻募金に回ります。

2. 5月10日は母の日です、忘れないように!贈花のカーネーションは安く手に入るの、近年大部分が輸入です。神奈川県のは以前の5分の1に減っています。最近生き花のカーネーションを使う人が増えています。お



母さんのいない人は奥さんにどうぞ。

3. 例会終了後理事会をモロキニで行います。

### ◇幹事報告 井上 浩吉幹事

1. 例会変更：秦野中RC
2. 2015年度ロータリー米山奨学金申込書
3. 5月のロータリーレート1ドル=118円

### ◇一言：嶋立庵の掟 井上浩吉さん

崇雪が嶋立庵を創設した後に来た大淀三千風が庵主になりましたが、その時に将来庵主になる人の地位を定めております。誰でも庵主になれるものではなく＝



1. 出世をした坊さんは駄目＝お寺を任せられるような僧侶はなってはいけない、
  1. お手伝いを雇ってはいけない。
  1. この庵を売ってはいけない。
  1. 税免除のため除き地にせよ。
  1. 代々真言宗を修行した僧侶がなるべきである。
    1. そのため大磯にある地福寺の檀家になってこれを支えなさい。
    1. 修行した僧が二人以上嶋立庵に入ってはいけない。
    1. 朝晩鉦や太鼓で念仏を唱える事。
      1. 着るものは麻か木綿、それ以外のものは着てはいけない。
      1. 常夜灯の火を絶やしてはいけない。

以上十の定めを守れない人は庵主になるなど言う掟があったようです。これを全部の庵主が守った訳ではなくて、前回話した時処人（じしょじん）昭和19年に庵主を辞めましたが、これまでが仏道に帰依していた人がやっていたようです。その後鈴木芳如が俳人で、その後仏道に関係ない庵主が嶋立庵主を務めているようです。

### ◇委員会報告

#### ☆スマイルボックス 井上 浩吉さん

- ・守屋紀忠さん：原貫太さんよろしくお祈りします。田中さん結婚記念日おめでとうございます。
- ・井上浩吉さん：ゲストスピーカー原さんよろしくお祈り致します。田中さん結婚記念日おめでとうございます。
- ・河本親秀さん：田中さん結婚記念日おめでとうございます。お仕合せに！原貫太さんバングラデシュ国際協力隊の活動ご苦労様です。これからも頑張っ

て下さい。

- ・百瀬恵美子さん：田中さん御結婚記念日おめでとうございます。
- ・田中敏治さん：原さん、お疲れ様です。報告、よろしくお祈りします。みなさん、お花ありがとうございます。

### ◇卓話

#### バングラデシュ国際協力隊（BICP）

#### 第2回現地渡航活動報告

代表 原 貫太さん



バングラデシュ国際協力隊メンバ6名で2015年3月2日-3月18日までバングラデシュの首都ダッカへ渡航。その主な目的は

1. Awareness for the Childrenの実施
2. Conference with Street Childrenの実施
3. 現地団体・NGOとの意見交換

で、我々が掲げている「ストリートチルドレンの問題」にフォーカスをした活動を多岐に渡り行いました。

以下報告の概要です。

ストリートチルドレンが直面する問題・リスク＝栄養不良、感染症、劣悪な労働環境、（児童労働）、教育機会の欠如、警察や一般市民からの暴力、性的暴行、少年兵。

彼らに「問題は何と聞くと」「何も問題はないよ。楽しく生活しているよ」の答が返ってくる。

Conference With Street Children (CSC)ストリートチルドレン (SC)との会議の目的：

1. SCと共に路上生活について考え、彼らを意識付けする事
2. 現地学生並びに現地団体メンバーのSC問題に対する意識をより深める事。
3. SCと現地学生並びに現地団体メンバーの双方が歩み寄り、共に考えお互いを理解する事。

会議の形式：

SC、バングラデシュ人、渡航メンバーを均等に配置

=SC3人、バングラデシュ学生と現地NGO(Lets DO・Foundation)メンバー各2人、渡航メンバー各2人計9名×3テーブル

#### 会議の内容：

1. SCから抜け出せた子供達に以前の生活、現在の生活について語らせ、各人から意見、感想を発表させる。

#### アブドラ・カルク君の話：

##### 以前の生活

- ・幼い頃に両親を亡くした。
- ・MAZAR（廟堂）で路上生活していた。
- ・学校に通っていなかった。
- ・お金は物乞いしたり、友人から借りていた。
- ・一人で生活していて寂しかった。

##### 現在の生活

- ・友人に紹介して貰ったホテルのキッチンで働いている。
- ・1日の収入は200ダカ
- ・友人とホテルの寮で生活しており、路上生活から脱却できた。

##### 2. ディスカッション

「路上で暮らす事の問題やリスク」、「それらを改善するためには」という二つのテーマに対し、各テーブルで話し合い、各テーブルの代表者が意見を発表した。

#### CSC後のインタビュー：

ベラル君=昨年第1回渡航時に会っており、SCの中でのリーダー的存在。農村部に家があり、出稼ぎでダッカに来ている。時々稼いだお金を実家に持って帰る。

- ・このようなイベントにはじめて参加した。私の事を信用して招待してくれたのが凄く嬉しい。
- ・二つの事に気づいた=一つは今の自分の生活が良くないと言う事。元々今の生活が良くないとは思っていたが、CSCに参加したことでその気持ちが強くなった。二つ目は「ここから何とかしてよりよい生活にして行きたい」という気持ちになれたこと。先ずはそのためにしっかり勉強したい。

Q：CSCをより良いものにするためにはどんなものが必要か？

A：警察や組合の人達(SCの仕事を奪う)も招待してCSCをやりたい。

Q：CSCで学んだことを今後どのように生かして行きたいか？

A：学んだことを他の人にも伝えてその人にも他の人に伝えて貰った。この学びを拡げ 行きたい。

Q：CSCの運営スタッフをやってみたいか？A：二人「アラミンとあれば大丈夫!やってみたい

#### ナائم君：

アブドル・カレク君のMAZARでの生活はとても悪いものであったと思う。そこで生活していた時は、彼の周りには彼を可愛がってくれる人や意見を言ってくれる人がいなかった。そのような生活から今は抜け出せているし、自ら稼げているし、麻薬も使っていないため、良い生活を送れていると思う。

#### シハム君：

アブドル・カレク君が前より良い生活を送れていること事に感動した。前の生活では、これが良いことで、これが悪いことなどと教えてくれる人がいなかっただろう。暗い人生をやめて良い方向に向かっていた。

#### バングラデシュ国際協力隊の今後の方針

1. ストリートチルドレンに対する意識づけ。
2. 社会が持つ、ストリートチルドレンに対する“負”のイメージを変えて行く
3. ストリートチルドレンの「声」「思い」を社会に対して発信して行く。
4. 現地NGO施設への橋渡し(紹介)

#### 今後のCSC開催方針：

1. 警察や労働組合の人間、政府関係者等、更に多くの関係者を巻き込みCSCを開催する。
2. 第1回、第2回に参加したSCを次回以降のCSCでスタッフとして雇用。
3. 次回CSCに参加するSCは、現地渡航メンバーが今回のCSCに参加したSCと共に路上に出向き、募る。



#### 编者注：

原貫太さんが作成・卓話に使用されたパワーポイントは大磯RCのホームページに掲載しますのでご覧下さい。